

## 中国海軍ニュース：中国初の国産空母はどこに問題があるか

漢和防務評論 20181210(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

昨年4月に進水した中国初の国産空母（大連空母）001Aは、今年5月の最初の海上試験以降、造船所に滞留したままです。  
漢和は、何か重大な問題が発生したと見ています。  
考えられるトラブルは、動力系統か或いは船体のバランスです。  
中央軍事委員会は、国産武器全体の品質について問題視している、と。

### KDR 東京特電：

中国初の国産空母 001A の活動を詳細に観察し、動向には注意しなければならない。中国造船重工の一部上層管理者が逮捕された。001A は 2013 年 11 月に建造が開始され、2017 年 4 月に進水、2018 年 5 月 13 から 18 日の間に最初の海上試験を行った。海上試験の期間は 6 日であった。それ以後、海上試験の情報はなかった。その後 8 月 26 日から 30 日の間に 2 回目の海上試験が行われたとの情報が入った。試験の期間は 5 日であった。遼寧艦の当時の海上試験の期間に比べると、相当慎重に見える。

現在、ワリヤーグ（遼寧艦）の当時の海上試験状況と比較してみる。2011 年 8 月 10 日、遼寧は最初の海上試験に出航し、14 日に帰港した。試験の期間は 5 日であった。11 月 29 日、2 回目の海上試験に出航、12 月 11 日に帰港した。試験の期間は 13 日であった。3 回目の海上試験は 12 月 20 日から 28 日で、期間は 9 日であった。

これを見ると多言を要しない。30 年にわたって中国軍の状況を観察してきた当誌（初期の「東亜外交と防務評論」誌の間を含め）から見れば、001A に問題があることは一目瞭然である。

5 月以降、001A の状況は以下の通りであり、001A の位置を詳細に観察すれば、問題があることが明確になる：5 月に海上試験が終了し、6 月 20 日に再びドックに入った。クレーンの活動が頻繁であった。このことは、1 回目の海上試験で船体自体に問題が発生したことを示している。最も可能性があるのは動力系統である。或いは重心のアンバランスや航行の安定性に多くの問題が発生した可能性もある。7 月 16 日、ドックを出て引き続き各種部材の組立を行った。ドックでの作業は、遼寧号の修理のために場所を譲った。しかし 001A は今のところ、艦番号が記入されていない。このことは海軍が未だ受領していないということなのか？ 軍代表が受領書に未だ署名していなければ、造船所は建造中の船舶に正式に艦番号を記入することはできない。

海軍が未だ正式に 001A を受領していないのは明らかである。

2 艘の空母が同時に同じ造船所で修理するのは、見世物としては壮観な風景であり、見上げるような壮大さであろう。

権威筋は KDR に次のように述べた：最近中央軍事委員会上層部は、” 研究開発

された武器の広範囲な品質問題” に関して会議を開催した。習近平は怒っていた。ここで指摘されたのは” 広範囲の品質問題” であることに注目して欲しい。建造のスピードから見ると、001A は、建造開始から 1 回目の海上試験まで、わずか工期が 5 年であり、確かにいわゆる” 中国式スピード” で極めて速い。米国が建造した初代 KITTY HAWK 空母は、龍骨設置が 1956 年、就役が 1961 年で、工期は 5 年である。しかしこれは米国が最も豊富な空母建造経験があるからである。

最も参考になるのは当然ソ連の最初の空母 KUZNETSOV である。同空母は龍骨設置が 1982 年 4 月 1 日、進水は 1985 年 12 月 6 日、海上試験は 1990 年である。工期は 7 年で最終的な就役は 1995 年であった。

建造スピードの速さは、高品質を意味しない。001A は、1 回目の海上試験後、造船所に滞留したままである。これは、武器システムに不具合があったからではない。武器システムの試験は今後の海上試験の間に出来るはずである。

船舶重工集団の総経理孫波の罪名は未だ公表されていない。しかも過去 1 年間、彩色旗を掲げたり、指導者の車列が出現したり、001A の海上試験が始まりそうな” 気配” が無数にあった。しかしその後の情報はない。001A の動力系統は遼寧と同じである。ボイラー技術はウクライナから移転され、ハルビンで製造生産された。ウクライナの艦載動力系統の研究センターは、多くがクリミア半島にあり、ロシアに復帰したあとは、ウクライナ国内にあるその他の関連工場、大学、研究所ともに次々と閉鎖された。

以上